ＡＡ　伝説の物語

2011 年 12 月 30 日

“日本一の人間力を備えたプロ集団を目指して！”

～初めて真心を感じて～

〇〇の職員さんは、いつも一生懸命で真心を感じ、すごく嬉しかったです。夜中に尿器におしっこをする時、時々失敗して漏らしてしまい、下に敷いてあるパットを汚してしまうことがありました。

私は、すごくそれを気にしていたのですが、〇〇の職員さんは『失敗してないよ。大丈夫』と、いつも声掛けしてくれました。失敗していることは、自分でも分かるのだけれど、みんな必ず『大丈夫！漏れてないよ』と言ってくれて、すごく真心を感じました。**病院のナースからは得られなかった真心が、本当に嬉しかったです。**

移乗がぎこちない時もあったけれど、職員さんの一生懸命な対応が嬉しく、少しくらい痛くても我慢できました。細かいところまで気配りをして下さり、『病院とは違うな』と感じていました。

退所後は手術が待っていて、今はすごく不安だけど、春には元気になって歩ける姿を〇〇の職員さんに見てもらう事を目標に頑張りたいと思っています。初めて真心を感じて、嬉しい気持ちが持てた 10 日間でした。感謝しています。

こんな、うれしいお言葉を頂きました。

＜本部からのコメント＞

Ａ様（利用者様）のお世話をさせて頂いたのはＢさん（職員）です。Ｂさんは、まだキャリアも浅く、スキルは現在、急成長中です。

「移乗がぎこちない時もあったけど、職員さんの一生懸命な対応が嬉しく、少しくらい痛くても我慢できました」とあります。介護のプロとすれば、複雑な氣持ちですが、Ｂさんの人間力は、確実にＡ様の心に届いていたようですね。

Ｂさんのこの行動は、モデル行動の２「思いやり」の４番目（自ら考え、自ら行動したもの）を実践した結果ですね。

これを続ければ「日本一の人間力を備えたプロ」に確実に近づけることでしょう（「日本一の介護スキルを備えたプロ」になるための努力はもう少し頑張ろうね）。Ｂさんに心からの拍手を送りましょう。

これによって、私たちの理念の中にある「私たち〇〇のお客様は、ここで新たな交流や思い出を作ることの喜びを通して、生きがいを感じることができるのです」に一歩前進です。